平成２９年度　第2回　山梨県文学館協議会　会議結果記録

日　時：平成３０年２月２８日（水）　午後２時～４時２０分
場　所：県立文学館研修室
参加者：
　○委　　員　津久井豊徳、石川芳子、杉原克彦、水石和仁、長谷川千秋、古川裕佳、
　　　　　　　廣瀬孝嘉、出澤忠利、赤井美知江、清水千春
　○県教育委員会学術文化財課　百瀬課長、海老根主任
　○文学館　　三枝館長、上島副館長、古屋次長、高室学芸幹、保坂学芸課長
　　　　　　　飯沼資料情報課長、望月総務課主幹、中野学芸員（学芸担当ﾘｰﾀﾞｰ）、
　　　　　　　石田主幹・教育主事（教育普及担当ﾘｰﾀﾞｰ）、水上副主幹（資料情報課ﾘｰﾀﾞｰ）
　○指定管理者　岩野ＳＰＳやまなし支配人、高橋ＳＰＳやまなし副支配人

議事
（１）平成２９年度事業報告について
（２）平成３０年度事業計画について
（３）その他

司会　上島副館長

議事録

○事務局から会議資料により、議事（１）～（２）を説明

○議長
事務局から説明をして頂きました。ご質問ご意見等がございましたらお願いします。

○Ａ委員
資料を見たり説明してもらう中で、関係ある方々が大変色々ご努力をしているっていうことが分かりました。本当に有難うございます。そういった中で、３点ほど質問です。まず資料の３ページのところの利用者の状況があるんですが、そのイベント等というところで、教育普及事業利用者のイベント等がありますが、本年度の人数を見ると、去年の５，０２３人に対して、今年一月末現在は１０，０４３人と、昨年度のほぼ倍になっております。これはなんか特別な工夫があったのか大変素晴らしいことだなと思います。これはどうしてかなってことをちょっと思いましたので質問しました。２点目は資料５ページで、企画展の観覧者数を見ていくと、最初の「山梨の文学」は１日平均で４００～５００人、２００人～３００人を超えている企画展は、大体有名な作家の企画展ですが、２２年のくじら雲からチックタックまで小学校国語教科書に載った思い出のお話原画展は１日平均３００人台っていうかなりの人数を集めてるんですが、なにか理由とかあったのか、また企画展の中で、有名な作家

展ばかりではなく、こういう展覧会難しいかもしれないけど、こういうのもあるんじゃないか今後の参考になるのかなぁと感じました。３点目ですが、資料９ページのチャレンジクイズの参加人数が、圧倒的に人数が多いんですが、これは、何回かの合計人数なのか、あるいはひょっとしてヴァンフオーレ等の関係があるのか、その辺お分かりになりましたらお願いします。

○議長

それでは３点ございますので、まず３ページの、イベント等の人数が倍増しているけれど、何か特効薬というか何か仕掛けがあったのかどうか、事務局お願いします。

○事務局

最初のご質問、イベント等が非常に多いというお話ですけれども、今年、夏の特設展で若い方々に非常に人気のある文豪ストレイドッグスという漫画がありまして、その漫画とコラボした展示をしました。県内はもちろん県外からもたくさんの方々が、来館するということがありました。若い方だけにツイッターやＳＮＳ等を利用して展覧会の情報が拡散するのが早くてですね、非常にたくさんの集客が有りました。それで、今年は増えております。

３番目のチャレンジクイズですけど２つあります。一番上、「チャレンジ文学館　私はだあれ」というのは常設展に関わるクイズです。どういうものかといいますと、どうしても子供には文学館の展示内容は敷居が高い部分がございまして、それを少しでもわかりやくするために、年齢にあわせたクイズ形式で、なるべく多くの展示を見てもらいたいと通年やっておりますので、ちょっと他よりも高い数字になっております。

一番下の特設展チャレンジクイズですが、やはり先ほど申し上げた、漫画とのコラボレーション企画と関係があります。展示内容がクイズにしてあるんですけどこのクイズに全部答えて頂くと、その漫画の登場人物をあしらった特製のバッジをプレゼントしておりました。それがとても人気がありまして、バッジ欲しさにクイズをやる方がいっぱいいてこのような数になっております。先ほどお話にありましたけれど、若い人に人気あるものをやると効果があるなと思うんですけど、それを何とかこう文学館に親しむ入口にしたいな、これからもコラボしていきたいなというのが我々の希望です。

○事務局

続けて２つ目のご質問いただいた件でお答え致します。２２番のくじら雲からチックタックまでの入館者数ですが、これは小学校の国語の教科書で取り上げた人気作品、「ゴンぎつね」、「白い帽子」、あるいは「泰造爺さんと雁」いう様な国語の教科書でこれまで取り上げてきた作品の挿絵の原画を集め、それをこの文学館とお隣の県立美術館で、文学館では小学校１、２、３年の教科書に取り上げられた作品の原画を、美術館では４、５、６年生の教科書で取り上げられた作品の原画を展示致しました。同時期に美術館、文学館両方で小学校の国語教科書に載った原画という同じテーマの作品が見られるということで、こういった人数に結びついたのではないかなと思います。美術館と文学館が共同で行った、初めての大きな展覧会でしたのでこういった数字になりました。

○議長
　はい、ありがとうございます。１点目と３点目はですね、若い人に働きかけるような、そんなこの仕掛けがあったと、そういうことで若い人たちが集まってきたというふうなことがあろうかと思います。２点目は隣の美術館とコラボして共同でやっていると。これも一つの方法かなと、賑わいを作るという意味で、なんか両方ともヒントがあったなと思います。何かこの件について、ご意見ございますか。

○Ａ委員
　この企画展は、他の企画展と変わっていると思うのですが、こういう企画ができればいいなというのが１点と、もう一つ若い人を上手く文学館に導くことができれば、そのうち自分がお父さんお母さんになった時、また訪ねてくると思います。若い人の声を聴くっていうんですか、アンケートはやっていると思うんですが、そういったものもお考え頂ければいいんじゃないかと思います。

○議長
　若い人の視点での企画展でもあったんではないかという事でした。その他何かございますか。せっかくですから順に、こう聞いていく感じにしましょうかね。Ｂ委員さんよろしくお願いします。

○Ｂ委員
　私がお話を伺って面白いと思ったのは、自由研究、夏休みの自由研究というもので、先ほどのお話しに続きますけれども、小さい方にアピールするところがあっただろうなということと、おじいちゃんおばあちゃんと一緒にお子さんに参加してもらうという試みをされているというところが面白くうかがいました。
　私仕事柄、文学研究をしておりますので、色んな地域の文学館に行くんですけれども、自分史ですとか、それから短歌、俳句ですとか、そういった形である程度の年齢の方に参加を促すイベントをやっている文学館が多いなと思うんですけれども、まだそんなに難しい資料を読みこめない年頃の方にも色々興味を持って頂くっていう努力をされているというところ面白く伺いました。

○議長
　はい、特に質問ということではなくて、ご意見・感想のように思います。では、Ｃ委員よろしくお願いします。

○Ｃ委員
　すごく丁寧な資料をお作りくださいまして有り難うございます。まず質問の部分ですが、校外学習のことです。ここへ来館する学校のアクセスはどういう方法を皆さんとられてるんでしょうか。自家用車で来ているのか、それともバス等の公共機関を利用してこちらに来られているのかということをお教え頂きたいっていうのが一つあります。同時に校外学習の場合、学校との接点、これは毎年同じ先生が利用しているのか、それとも学校単位で決められ

てどこがお越しになるのか教えて頂ければと思っています。後、私の希望と言ってはおかしいんですけれども、やはり文学の場合はすぐ本を読むといってもですね、ある程度の年齢にならないと文字は読めないんじゃないかと私は感じているんですけれども、本を好きになるっていう一番の最初の原点で、今回資料にもございましたけど、県民のレベルアップ、文化的なレベルアップっていうんでしょうか。そういうことを勘案すると、やはり小さい時、幼児の時からなんか仕掛けをした方が、子どもが進学、就職をする時になって、山梨県にずっと居て欲しいけれどもそうではないかもしれない。しかし、その人が子どもの頃の、山梨県で文学館との接点ができたっていうことが縁で、将来的に山梨に戻ってきて頂けるんじゃないかと思う。未来財産的なことになるんですけれども、大事なことじゃないかなと思います。できましたら読み聞かせというのを、幼稚園の先生方も一緒に巻き添えにして、この文学館にこういう面白い本があるんだよ、もしくは文学というと大袈裟になるんでしょうけども、本を好きになるということを進めて頂くと、この県立文学館を作った意味も少しは達成できるんじゃないかなと思いました。読み聞かせというのは多分皆さん女性の方は、お母さんになった方は分るのですけれども、小さい時に読み聞かせをやってる子は、本が好きになっているというデータがあります。確かに私もそれは感じております。小さい時に読んでもらったということがどこか頭の中に入っておりますので、そういう部分からお進め頂ければというふうに思いました。

○議長
　はい、じゃ最初の校外学習の件で、お答えいただければと思います。

○事務局
　資料の１０ページをご覧になって下さい。１０ページの（１３）、校外学習でご利用いただいた学校の一覧表があります。参加人数を見て頂くと、非常に少人数の学校から来ていただく手段は色々ですけれども、大人数の場合は学年単位、学校単位で来ていただいてます。そういう場合は、学校でチャーターしたバスですとか、あるいは近くの学校の場合は自転車で来館しています。後、中学校の場合は、小人数の小グループの場合は、たくさんの学校で実施しているんですが、県内巡りといいまして、自分たちで山梨県内の見たいところをピックアップして、自分たちでバスの時間等を調べて県内を周ってみようということを勉強の一環としてよくやります。それでよくお見えになってくださいます。そうやって自分の足で来て頂けることと、行くところは必ず下調べしてきますので、下調べして来館して頂けると、本当に理解も深まっていい循環になって我々も歓迎しております。そんな内訳です。人数の多い場合は学年単位・学校単位で、人数が少ない場合は学校、学年行事として県内巡りとしてお見えになる場合が多いです。以上です。

○議長
　はい、有り難うございます。上の方に普蓮土学園なんてございますよね。それから早稲田の高等学院、毎年のように来ているように思います。城西高校それから甲府昭和高校、塩山高校というようなところも、きっと学校行事っていうか教育課程の中に位置づけて、学年単位でやっていると思います。実は私も若い頃、甲府昭和高校の教諭でございまして、この文

学館ができた当初に、文学館の学芸員の先生や、色んな方にご案内頂きながらこの校外行事を作り上げてきました。そして、せっかくの機会を後輩にずっと繋いで行くためには、教育課程の中にしっかり位置づけて、学校行事としてやっていくという取り組みをしておりました。だから昭和高校は、平成２年からだと思いますが、ずっとやっていると思います。これだけ続いてるということは何か効果があると思います。学校に帰ったら必ずまとめをして、冊子を作って発表することになっていますので、それぞれの生徒の心に残るようになっているんじゃないかなと思います。甲府昭和高校の生徒は殆ど自転車でここまで来られますので、そういう意味では城西高校の生徒も同様だと思います。新田小学校は近いので、学校として取り組んでいるのかなと思います。このあたりの学校は常連校このように思います。東京の早稲田の高等学院が毎年のように利用しているのは何か理由はありますか。

〇事務局

早稲田の高等学院さんは、三枝館長の母校でありますので、そういったご縁をいただいておいで頂くようになっています。生徒さんがおいでなりますと、館長自ら高校時代のことなど、生徒に向ってお話する時間を取っていただいて、校外学習にご利用頂いております。

〇議長

有り難うございます。酒折連歌賞も早稲田の高等学院が一生懸命参加して頂いていますが、それもずっと三枝館長が道案内をして頂いたと思います。そしてこれらの学校、甲府城西とか甲府昭和だとか塩山とか、こういうことを企画してくれる先生が育っていく、順に増えていくというのは、人のネットワークみたいなところが必要だと思います。そういうものが広がっていくともっともっと広がりが出てくると思います。読み聞かせの件はいかがでしょう。

〇事務局

貴重なご意見をありがとうございます。文学館でも朗読会というような形のものはありますけれども、もっと身近にその子どもさんたちと本当に間近に接しての読み聞かせという試みは、まだ行ったことはございません。また、各地域の図書館などにもそういうノウハウがあるかと思いますので、そういったところも研究してみたいと思います。貴重なご意見を有り難うございます。

〇議長

それぞれの地域には図書館があって、図書館なんかで読み聞かせをやっていますので、そういうところとうまく連携を取りながらだというふうに思います。

それでは、Ｄ委員お願いします。

〇Ｄ委員

津島展を観させて頂いたんですけれども、津島佑子さんが甲州弁をこちらのお年寄りに取材をして、色々聞き取ったりしていました。メモとか取材ノートとかもうすごく保存状態が良く展示されていまして、記者として取材する側から見てもすごく面白い資料だなと思います。こんなに細かく取材して、色々な言葉を聞いて上手に構成されていると面白く見させて

いただきました。作家の構成段階から分るっていうことが面白いと思うのですけれども、やっぱり４，０００人という観覧者ですが、もっと入って欲しいなというふうに思います。来年度、３０年度の企画展では、草野心平展ということでしたが、井伏鱒二さんが生誕１２０年で、井伏さんは非常に山梨とも関係もあり井伏さんの企画展でもいいのかなとも思ったのですけれども、井伏さんは、もう何回も企画やったことがあるのでしょうか。

〇事務局

そうですね、確かに井伏鱒二というのは大変大きい作家でありますので、企画展にしても、間違いなく大きなテーマだと思います。ただ、今お話し頂きましたように、過去の企画展で、亡くなって翌々年でしたか、資料５ページの企画展観覧者数７番のところで大きな井伏鱒二展を一度開催しております。また、２２年にも飯田龍太と井伏鱒二の往復書簡展を行なっておりまして、何回かの実績を振り返りながら、全体の計画でこのような企画にいたしました。

〇Ｄ委員

後は、文学館のファンを作る、接点を増やそうということで、色々な移動教室とか、講演会とか俳句会とかですね、非常に利用されているというところです。先日も大学生の読書離れみたいな話も調査で出ていましたけれども、新聞社も活字離れということで取り組みを行っていることが非常に似ているなというか。私たちもＮＩＥという新聞を教育に使うという、普及授業とか出張講座とか色々やって、自由研究にも新聞を使ってもらおうという事業です。そこで、お父さんとおじいちゃんと子どもさんで、若い子向けに新聞を利用してもらおうということで、一生懸命やっているんですけれども、なかなか上手くいかないというか、部数が減っているという状況で非常に厳しいんですけれども、そんなことで、文学館の努力の様子を聞かせてもらいました。先ほどから出ているように、若い人に来てもらうっていうことが文学館の発展というか情報発信に繋がっていくという話でですね、今回、ものすごくイベントで数が増えたという漫画とのコラボレーションというような企画展ですけれども、本当に文学館の専門性を生かした非常に骨太な企画の中に、やはり時折媚びるわけじゃないですけど、若い人向けの、例えば漫画とか音楽とかというふうなものを取り入れる。ボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞したように、歌詞が非常に注目され文学としても高い評価を受けたということで、漫画についても高い評価を受ける作品もあると思います。例えば、山梨で言ったらレミオロメンとかＢＯＯＭとかですね。館長が以前、藤巻さんと文学創作教室をしておりました。ああいうふうなその歌詞に焦点を当てて、山梨出身の歌手や漫画家なんかを上手く活用して、若い人や山梨県に限らず県外からも観覧者が来るような、そういう企画も考えていったらどうかなという感想を持ちました。

館長が前回おっしゃられていた、一人の至福の時間を過ごすというふうな、本当にそういう文学館であるとともに、やっぱり裾野を少しでも広げるという形で力を入れて頂けるといいんじゃないかと思います。後、３０周年ということで、今年の１１月で３０年目になると報告があったのですが、周年事業みたいなものっていうのは何か予定しているのでしょうか。予定している展覧会とか、発掘を予定している資料は何かあるんでしょうか。

〇事務局

色々貴重なご意見有り難うございます。平成元年に開館して、３０周年を間もなく迎えるところでございます。これまでも、１０周年また２０周年という節目には、様々な試みをしてきておりますので、３０年という大きな節目を、皆様と共に文学館を振り返りまた未来に向うような事業を考えていきたいと思っていますが、ちょっと今の段階で具体的なことまでをご報告できることはございませんが、また色々ご意見を頂きながらよいことを行っていきたいと思います。よろしくお願いい致します。

〇議長

何かいい仕掛けがございましたらという事のようです。では次に、Ｅ委員にお願いしたと思います。

〇Ｅ委員

質問からですが、文学館が３０周年だそうですけれども、評価する指標みたいなものっていうは大変難しいと思うんです。まずは入館者数とか、イベントの参加者数ってところが一つの指標みたいなものになってくると思うんですけれども、単年度のものはあると思うんですが、例えば中長期の目標みたいなものがあるのかどうか。例えば平成何十年までに、何を達成するとかですね、そういった目標があるのかどうかお聞かせ願いたい。それから、賑わいの創出事業のところについては非常にアイディアに富んだものを行っているなという印象を持っております。その商談会のところなんですが、企業の研修旅行としてのニーズというところは、山梨の観光の中に文学館を取り入れてもらって、研修もして帰ってもらうと言うような事でよろしいでしょうか。それは県内の企業も利用出来るのかどうか、こういった落ち着いた雰囲気の中で、企業の社員の研修なんかをすると、非常に落ち着いた気持ちの中で研修も出来るので、教育効果も上がると考えました。私、総務にもいたことがあって、社員の教育もやっていたんですけれども､非常に研修する環境っていうのは大事なものですから、県内の企業も対象になるのかどうかというところをお聞かせ頂きたい。それから後は、勝手なアイディアなんですけれども、テレビメディアなのでどうしても動きのある企画や展示してあるものを撮影をしてニュースにしているんです。色々なワークショップが画になるんですが、例えば井伏鱒二の特設展なんかは、バスツアーを組んで、本当に辿っちゃうとかですね、山梨県内で増富のラジウム温泉とか下部温泉とかを辿るツアーをやってもらえると、非常にテレビ映像的にも絵になりますし、番組の一企画としても非常に使えるのかなと思いますので、そういうアクティブな面を出していただければ、テレビのニュースとしても取り上げやすくなるのかなと思います｡本当に色々なことをチャレンジされているというところは、非常に敬意を表しているところでございます。

後、この間、酒折連歌賞の表彰式に出させていただいて、その中で９５歳のおじいさまが賞を取られて非常にびっくりしたんです。今、お子さんに対する話が色々出ているんですけども、高齢者に対して、非常に短歌とか川柳とか俳句っていうのが、健康寿命を延ばすために、いわゆる介護予防っていうんですかね、そういったところの視点もあってもいいのかなぁと思います。うちの母親ももう８６歳になりまだまだお蔭様で元気なんですが、あの酒折連歌の話しなんかしますと、面白そうだね、きっとボケないと思うよなんて話もしてるんです。そういった健康寿命を延ばすための、文学館の利用みたいなものが、一つあってもいい

のかなぁなんていうことは勝手なアイディアですけれども思っております。

〇議長
　はい、３点ほどご提案を頂きました。テレビでも扱えるようなアクティブなその催しがあってもいいのではないかというふうなことでした。何か文学館の方からございますか。

〇事務局
　Ｅ委員の方から、館の事業についての評価と指標として長期短期の目標はどのようになるかというお話だと思います。事業の評価というのは数字だけではないというところもあるんですけれども、わかり易いその指標として、教育普及事業の参加人数があります。山梨県のダイナミック山梨総合計画の中で、県立博物館施設の普及事業の充実ということが挙げられており、平成２６年度の現況時から、５年かけて５パーセント増というのを目標値としておりますので、文学館としましては、平成３１年度までに２６，４１３人という数字を目標ということにしております。また展覧会の入館者数に関しても、各館が目標値を持とうということで、２９年度から、常設展と企画展の観覧者の目標値を設定しております。文学館では、常設展と企画展あわせて２９年度設定時点から１，５００人増員ということを目標にしております。また独自に、展覧会ごとに今回のイベントの目標はどうしようかということを館全体で確認して、それに向って工夫努力をしています。

〇議長
　はい、数値目標も持ちながら努力をしているとのことでございます。県内企業の研修の場にとか、健康寿命を延ばすようなイベントもということで、指定管理者の方から何かございますか。

〇事務局
　動きのあるバスツアーというところが指定管理者の担当範囲だと思いますので、その件についてお答えさせていただきたいと思います。お話聞いて非常に、面白いと思いました。残念ながら平成３０年度は事業イベントの企画をすべて決めてしまいましたので、今のところは予算の関係もございまして、特にバスツアーですとバスを動かすという費用も発生いたしますので、直近の１年間ではなかなか難しいと思うんですけれども、次の事業を検討する時には、このアイディアを検討させて頂きたいと思いますので、持ち帰りたいと思います。

〇事務局
　高齢者の事業のことですけれども、今日大変参考になる意見をお伺いしました。先ほども説明しましたが、若い層に向けての事業は展開しているんですけれども、高齢者に対する、高齢者のみを対象とするという事業は全く新しい視点でございまして、これから検討したいと思います、美術館の方では、認知症の方を対象とした鑑賞の事業なんかがあるというようなことを聞いておりますので、そういった事を参考にさせて頂いて、これから検討をしていきたいと思います。

○議長

幅広い層ですので大変ですが、よろしくお願いしたいと思います。それでは、Ｆ委員よろしくお願いします。

○Ｆ委員

ご報告を伺いまして、それぞれのところですごく努力してくださっているっていうのが、とてもよく伝わって来まして、本当に感服しました。また、三枝館長お忙しいにも関わらず、短歌教室とか出前授業までいってくださったみたいで、そういうふうな館長の姿勢がそのまま文学館のスタッフや、協力員のボランティアさんに浸透して、じわじわーっと成果が出て県民に伝わっていくんじゃないかなということを感じております。家庭におりますので、文学館からの色んな情報といいますか、新聞なんかを読みますと、今、文学館でどのような企画が行なわれているかという事を、学芸の方がとってもわかりやすくまとめて書いてくださっていまして、あれは県民みんなが見るんじゃないかと思います。特に、山梨日日新聞に子ども向けの子どもウイークリーという特集があったのですけど、いつもその企画に合せた分りやすい説明が書いてあり、以前その企画に文学の柱とのことが書いてありました。俳句が公園の中にいっぱいあるのですが、その説明が書かれた記事がございました。企画展で何が行なわれているだけじゃなくて、文学館でこういうものもやっているということも発信して頂くといいのではないかと思います。今年度もチャレンジ文学館の一つの事業である文学の柱に参加している子どもを見たのですが、入館者の数字にはすぐ現れなくても、どこかにそういう知識や情報が頭に入っていれば、大人になってから、時間があるから文学館へ行こうかというふうに繋がるんじゃないかと思います。先ほど、企画の内容の話がありまして、資料の５ページに企画展、特設展の観覧者数の数字が出ていました。でも観覧者数だけじゃないんですよね。私は協力員を何年もやっていますけれど、まずは文学館に県民の皆さんに足を運んでもらいたいな、来てもらわなければ始まらないという思いが強いんです。ちょっと戻るんですが、５ページのその特設展の方ですね、２２年度、先ほど話題に上りました「くじら雲からチックタックまで」、それから２５年度の「かいけつゾロリ」展と、それから２９年度の「作家のデビュー展」というのが本当に大きな集客があったのですが、今年は２９年度の作家のデビュー展ですが文豪ストレイドックスの影響だと思うんですが、これは本当に協力員でこの売店の販売を担当していましても、文学館のミュージアムの方に県外から若い人たちもたくさん見えました。やっぱり今の若者が楽しみ興味があるものを取り上げるのは、すごく大切だなというふうにとっても感じました。

それからその上の「かいけつゾロリ」の時は、夏休みだったのですが小学生を中心とするお子さんだけじゃなくて、ご両親と来るあるいはおじいちゃんおばあちゃんとか、家族ぐるみで来て、小学校の図書館に置いてある作品でしたので、本当に大勢の家族連れがきてくれました。「くじらぐも」とか「かいけつゾロリ」という、小学校の中で教育課程に組み込まれているような、小学校で習っているからご家庭なんかで話題になって、ちょっと見に行こうかとか、小学校の図書館で読んだから見に行こうかとか、連れて行こうかとかいう思いが家庭にはあるんじゃないかと思います。特に夏休みの特設展については、考えて頂ければいいなと思います。ミュージアムショップに座っていますと、意外に連休なんかの時に家族連れで見えるんですね。あるいは、おじいちゃんおばあちゃんが連れてくるんです。小さい時に

やっぱりこの場所にくれば、山梨県にこんなにきれいな建物や庭園がある文学館があるんだという経験を一回でも積んでおくと、大人になってからも来易いんじゃないかなって感じております。それから、ＳＰＳさんの方ですごく色々やって下さって、素晴らしいなっていうふうに効果も感じるんですが、一回目の時にちょっと話題になりました、文学館の方の文学碑を周る庭園のツアーを秋に実施くださいました。要望なんですが、春もまた素晴らしいですので、文学碑を廻るのも含めて庭園のツアーを年間を通じてやって頂ければすごく有り難いと思います。

〇議長

はい、有り難うございました。家族で足を運んでもらえるような、そんなきっかけ作りみたいなものがあればというふうなお話だったと思いますが、義務教育の方の先生をなさってますＧ委員何かわかりますかね。

〇Ｇ委員

毎回同じような話で申し訳ないんですけど、先ほどからお話を伺っていて、本当に文学に対しての興味関心を色々な角度からアピールしたり、敷居が高いと感じている人たちに対し文学館の魅力を伝えるために展示の工夫とか色々な角度から切り込んでご苦労なさっているってことで、本当に素晴しい取り組みだと感じております。立場上、教育普及についてお話をさせてもらいます。やはり博学連携事業で、先ほど話題になりました校外活動につきましては、もちろん学校単位ということもありますけど、先ほど説明してくださいましたように、グループ学習的に、興味を持った子どもたちが、美術館とセットで訪れたりということで、校外活動で展示を見せていただいたりしています。本校では、今年宮沢賢治のアウトリーチを貸して頂きまして、玄関のところに２ケ月位展示をしました。実は展示された時には、私は常に通りながら意識はしていたんですけど、子どもたちは２ケ月もすると、それが一つの風景になってしまいあまり興味を示さないのかと思ったら、それが撤収されたら子どもたちから「淋しいね」っていう言葉が聞けたり、図書館の司書に聞いたら、その時期は宮沢賢治の本が貸し出された冊数が多かったと言っていました。図書館の司書の苦労も多少子どもたちに伝わったのかなと思っています。今日、協議会に来る際に司書に話を聞きましたら、やはり一番人気のある文豪ストレイドッグスセットを来年も、また予約をしたっていうことで、ここを見てみると資料１０ページ（１４）のＥの文豪ストレイドッグスは幾つかの学校でもう借りていたので、来年は子どもたちも楽しみにしています。定番ですけど、校外活動とアウトリーチについては学校現場としてこのままやはり進めていきたいなと思います。特に私、興味を持ったのは、先ほどの説明の中で、増穂中学校の図書委員を対象にした出前授業、展示の仕方とか発表の仕方とか、後、資料９ページの（１０）番にあります文学解説ですが、これなんかは、図書館とか本に関わる、先ほどは委員の生徒、今度は図書館の司書とか国語教師を育てて、それを一般の生徒に伝える、普及の一つとして中心になる生徒とか教師を育てるのも一つの手だなっていうふうなことを聞いていて感じました。それから、私個人的なことですと、１０月に走れメロスの朗読講演会にきまして、大変感動しました。先ほどおっしゃられたんですけど、読み聞かせについては地域の団体とかが、学校に来て読み聞かせをしてくれるんですけど、文学作品を朗読してくれるとなると、またそれは違う魅力があるの

で、こんなふうなイベントなんかをもうちょっと広げて、研修室や講堂が本当にいっぱいになるくらい多くの方がこういう素敵なイベントに足を運んでくれればいいなというふうなことを感じました。

それから、木曜日のテレビでプレバトっていうのをご存知ですか。私は、テレビは滅多に観ないんですけど、木曜の７時だけは観るようにしているんです。俳句とか短歌とかって、学校で教わったりするものなんだけど、あんな形で、梅沢富美男や夏井いつき先生が主ですけど、それに出る芸能人や先生とのやり取りが好評で、最近人気が出て来たと思います。俳句なんかも、ああいうふうにすれば興味がない人も、すごく興味を持って研究するのかなと思います。やはり文学とかそういうものは素晴らしいということは分るんだけど、どういうふうな斬り込み方できっかけを作っていくのかっていう部分を皆さんも研究なさってるのは分るけど、そこの部分がすごく大切だなと思います。一度切り込んでしまうと、自分から追及したり自分で調べたりすると思います。それは教育と同じですね。やはり興味を持たせて好きにさせて、後は自分で色を付けてやっていくっていうことで、やはりこれからも文学館の魅力を県民に伝えること続けて頂きたいなと感じました。

最後に、資料２ページに３０年度の秋に熊王徳平さんの展示を常設展でやるって聞いて嬉しいです。私は、富士川町というか旧増穂出身で、恐らく子どものころ徳平さんが、お風呂に手ぬぐいを持って歩いていく姿を、何となく覚えているんです。そんなことで地元としてはやはり、徳平さんの企画をやって下さるっていうと、旧増穂、富士川町の恐らく観光課辺りが少し動いてくれれば、もちろん徳平さんを知っている年代というともう本当に、８０、９０歳。恐らく高齢の方たちが、すごく覚えていると思います。でも、興味のある高齢の方たちが文学館まで来るってすごく厳しいと思うので、やはり先ほどの観光バスじゃないですけど、できればそういうのは、地域の観光課みたいな所に働きかけて観に来て頂けるとありがたい。そこを富士川町がするかは知らないですけど、そんなふうなのもすることによって、すごく普及すると思いました。

○議長

はい、あの、色々の提案等も頂きましたが、まとめて文学館の方で何かございますか。

○事務局

色々な貴重なご意見、有り難うございました。熊王徳平の展示について、非常に喜んで頂けてこちらも頑張り甲斐があります。これまで、熊王徳平については、文学館にとって非常に重要な人でありながら、なかなか展示で紹介する機会がなかったものですから、来年度、常設展の一角ではございますが、期間限定公開として、改めて取り上げて当館で収蔵する資料を中心に、県民の皆さんにぜひとも知って頂きたいなと思っております。今、ご意見頂きましたように、富士川町の方にも働きかけて、出来るだけご協力を頂くように努力したいと思います。

○議長

はい、有り難うございます。冬には、小林一三も開かれ楽しみな展示があるようでございますので、みんなで人が来られるようにして行きたいというふうに思います。では、H委員

お願いします。

〇H委員

説明をお聞きして、色々な企画を催して頂いているってことがよく分りました。主婦である私には、こういった努力は今回初めて細かく見させていただいて驚いております。こういったことがもっと一般の方にも、わかって頂いたらきっと、もっと、興味をもって頂けるんじゃないかなって感じました。それで、後は、文学館と美術館をこの前、一緒にお比べになってくださった方がいらっしゃいましたが、私、文学館へは文芸協会の関係で毎月最低一回くらいは利用していますが、美術館の方は、幼児の絵画の大会とか、書道の大会の展示があった時に、孫や子どもと一緒に足を運ばせて頂いています。やっぱり家族連れで足を運ぶと賑わいは３倍なんです。文学館へ誘っても、孫がまだ幼児だったりすると退屈しちゃうかなって、外の池の鯉を見て終わりなんです。庭のお花を見せていると帰りたいっていうくらいなんですけど、もしも文学館の方でも、幼児向けの俳句教室とか短歌教室とかあったりして、それに付随して保育園や幼稚園も協力して頂いたりすると、山梨の風土として、俳句はもう地面から生えてるような県ですし、短歌もせっかくこうして、三枝館長をはじめ素晴らしい先生がいらっしゃって下さるので、これも幼児のうちに根付かせ、短歌の大会をするようになれば、親も一緒に一家そろって来ると、３倍、４倍の人数が増えてくれると思いました。

この前、文学館を利用する用事がある時に捻挫しちゃったものですから、駐車場から文学館に来るのにとても苦労すると思い欠席してしまいましました。そこで、伺いたいのですが、車椅子の利用者が近道をさせていただくことができるでしょうか。

〇議長

障害者への対応についてお答えいただければいいと思います。

〇事務局

第一駐車場は非常に広いですので、車をお停めになった場所によっても、少しルート、近道が違うのかなと思うんですけど、美術館側というんでしょうか、駐車場のすぐそばにおトイレがあります。半年ほど前にトイレへの近道として歩道が整備され、車椅子の方も近道ということでご利用できます。文学館の茶室側に駐車した場合は、入り口まで距離があると思いますので、ご連絡を頂ければ文学館の裏の方から特別対応ということでお通しすることも可能です。

〇H委員

それは、当日でも対処して頂けるんですか。

〇事務局

ご案内はできますけれども、車椅子の扱いに関しては、お客様自身にお願いをしております。導線に関してのご説明はさせて頂きますので当日でも大丈夫です。

〇議長

最後でございますが、Ｉ委員全体をまとめて頂きながらご意見を頂ければと思いますのでよろしくお願いします。

〇Ｉ委員
大変なお役目を仰せつかりました。まず、まとめ以外のところで、小さな質問をさせて下さい。資料１４ページのところで調査相談という項目がございます。これを見ておりますと、平成２９年度は１月までのデータでも、前年度と比べましても倍の相談件数があるということが分かりますけれども、これについては、何か原因といいますか状況というか、お解りになりますでしょうか。

〇事務局
２９年度につきましては、前年度３４２件に比べまして、１月末現在で６７６件ということでかなり増えている状況です。月別のところを見ますと、６月のところでちょっと大きい件数になっていますが、展示をご覧になった方が、閲覧室に見えて関連の質問をされたりとか、後、やはりグループ学習で見えた中学生高校生の皆さんが、課題を持っていらっしゃるという例がありまして、グループごとに別々の質問をされたということがありましたので、その関係で前年と比べて増えているのではないかと考えています。

〇Ｉ委員
有り難うございました。そういうことであるならば、これは文学館の様々な取り組みが功を奏してきているという数値ではないかなと私は理解しました。色々なお話が皆様方から上がってきておりまして、その辺のところをちょっと考えますに、もう十分様々な企画、事業、取り組みが行なわれていると思います。後、もし求めるならば、伝え方、見せ方というところが鍵になってくるのかなと思っています。わたくし大学におりまして、大学でも若い人たちにどうやって伝えるか、どうやって魅力的にするかっていうところが、いつも念頭にあります。それでついそんなことを思った訳なんですが、今の若い人たちはやることが一杯ありまして、その中でこんな面白いことがあるんだよという、やはり伝え方見せ方というのが鍵になってくるのかなというふうに思っています。例えば、企画のタイトルなども、今風な言い方で言うとキャッチ―なタイトルというのでしょうかね、若い人の心を掴むようなタイトルや副題などをつけてあげることで、本来素晴らしい企画が、一層生きてくるのではないかということを思いました。そういう時には、もしかすると高校生であるとか大学生であるとか、若い人たちの意見も聞きながら、タイトルを考えてみるということもあってもよいのかなということを思いました。また、文学館は優れた学芸員の方々の高い調査研究能力を有していらっしゃるということと、それと、また優れた蔵書がある、それ故の優れた企画があるわけなんですけれども、県外から、近代文学なんかの研究者が調査研究にやってきている事実もありますよね。そういうところが実はあんまり県内の人々には知られていないんですね。こういう存在価値のある文学館が山梨県にあるんだということを、ＰＲしていくことも、実は必要なのかなと思います。ＰＲという点ではですね、昨年甲州市のケカチ遺跡から、和歌刻書土器という１０世紀の和歌を書いた資料が出ました。これは全国的に見てもものすごく珍しいものなんですね。こういったものも、県内の方々に知って頂く発信機に文学館がなっ

て頂く。せっかく三枝館長がいらっしゃいますので、和歌という観点で、歌という観点で、お話をこれまでもされていますけれども、文学館の企画として何かやって頂くっていうことも面白いなと思います。また、どういう人を呼び込むかということで、「若い人たち」というのが一つキーワードとなってきたのかなと思います。対象をものすごく若く幼児期の方も、何か読み聞かせるというようなこともありました。で、この辺はなかなか蔵書の関係で色々大変だろうなというふうにお話を伺っていて思ったんですけれども、取り組んでいく価値があることはあるのかなと思いました。また、同じ若い人たちでも、小学校の高学年から、大学生２０代あたりの若い人たちっていうところも、一つの鍵になってくるのかなと思います。その辺は先ほど申し上げましたような、伝え方、見せ方というところで、もっともっと取り組んでいく必要があるのかなと思うんですね。それから、若い人たちでなく、高齢者の方々というご意見も出たかと思うんですけれども、高齢者というには失礼なくらい最近元気な方が多くて、６０代７０代ぐらいの方々は、本当にエネルギッシュに文学館に足を運ぶということをされているんじゃないかと思います。が、これらの方々は、今ちょうど親の介護にあたっている時期かなと思います。で、親の介護にあたっている方々は、介護疲れで日々ちょっと乾いた生活になっていると思うんですね。そういう時に文学っていうのは、本当に素晴しい癒しになるはずで、そういう方々に足を運んで頂くような企画を、すでにやっていらっしゃると思うんですけれども、そういうものも、そういう方々の救いになるような文学館であるとなお一層よろしいのかなというふうに聞いていて思いました。

〇議長

　有り難うございました。最後にＩ委員におまとめを頂きました。色々な提案も頂きましたので、よろしくお願いをしたいと思います。時間も押していますので、何かその他、これは、これだけはというふうなご意見がございましたら、どうでしょうか。

　よろしいでしょうか。じゃあ、１番２番はこれくらいにいたしまして、議事３番のその他でございますが、事務局から何かございますか。

〇事務局

　第一回の協議会の時にも、準備中ということをご報告したことでございますけど、芸術の森公園内にある、飯田蛇笏文学碑と飯田龍太文学碑につきまして、なんて書いてあるんだろう、或は誰の句が書いてあるんだろうとの疑問を持たれる方への何か表示が必要ではないかというご指摘をかねがね頂いておりました。色々準備が整いまして、今年度内３月中には、その表示を２か所、蛇笏、龍太文学碑の側に建てるという目処を付けましたので、ご報告いたします。４月以降にはご覧いただける形になろうかと思います。

〇議長

　はい、有り難うございます。あの、委員さんのご意見が実を結んだようです。有り難うございます。今日は少ない方々でしたが、みんな熱いご意見を頂きまして、有り難うございました。文学館では、あの手この手で色んな仕掛けをしている。そして、そういうことが広くみんなに伝われば、もっともっと足を運んでもらえるのではないかいうふうなことでございます。今日は報道関係の方が、お二人お見えでございますので、文学館のこの努力を、いつ

かの機会に記事にして頂きまして、広く県民に目に入るような形にしていただいて、足を運ぶきっかけを作って頂ければ有難いと思います。

伝え方、見せ方、若い人、高齢者、様々な形で、どういうふうに呼びかけて行くか、こういうことは大事だろうと思います。文学を通して自分の人生を振り返ったり、自分の人生を見つめたりというふうなことで、広い世の中を平和な世の中を作っていくような形が大事だろうなというふうに思います。考えてみますと、山梨県は文化の香り高い県ではないかなと思います。もっともっと誇りを持って、自分たちがその実践者といいますか、そういうふうな形で文化を形作っていく。なかなか時間のかかること、難しいことなんですが、そういうふうな心持ちでやって行きたいと思います。本日は貴重なご意見をたくさん賜り誠に有り難うございました。まぁ、委員の皆様にはですね、今後ともお気づきの点がございましたらいつでも事務局の方に、ご意見をお寄せいただければと思います。以上で議事を終了したいと思います。ご協力有り難うございました。